

# 2021新しい中学校学習指導要領の全面実施に向けて「必読」！ 中学校英語科授業改善パンフレット

新学習指導要領で育成を目指す力をしっかりと付けるために英語指導の充実を図りましょう

2021年度からの新しい中学校学習指導要領の全面実施を控え、2018年度から3年間の移行期間に入りました。この期間、外国語の指導に当たっては、その全部又は一部について新中学校学習指導要領の規定によることができることとなり、適宜授業に組み込み、2021年度の全面実施の際に大きな段差を感じさせないように指導する必要があります。

## 外国語の目標

新中学校学習指導要領（平成29年告示）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、**簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、**聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能**を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、**外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力**を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、**主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度**を養う。

新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力の三つの柱で目標が整理されています。

- (1) 知識及び技能
  - (2) 思考力、判断力、表現力等
  - (3) 学びに向かう力、人間性等
- ※学習評価の観点は、今後別途示されます。



つまり、新学習指導要領では、

- ・言語材料の個別の知識量ではなく、コミュニケーションにおいて**それらを実際に「活用できる技能」**に焦点を当てています。
- ・言語を理解し、表現するだけでなく、**互いに伝え合うインタラクティブな面が重視**されています。
- ・コミュニケーションにおいて**聞き手、読み手、話し手、書き手に対して配慮**することが含まれています。

新中学校学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を進めるため、本パンフレットでは、基本的かつ具体的なポイントを以下の2部構成で紹介します。

第1部：新学習指導要領による具体的な授業改善の視点

第2部：英語予備調査問題から見る技能別の具体的な授業改善の取組



# 今、求められる英語授業改善に向けたCheck List



新学習指導要領で求められる力を生徒たちにしっかりと付けていくためには、自らの授業を客観的に見直し、授業改善を進めていくことが大切です。それは、現行の学習指導要領でも求められていたことですが、今一度自身の授業を振り返り、思い当たることがあれば、指定されたページを見て改善のヒントにしてください。

★まずは自己チェック！

4:よく当てはまる 3:まあまあ当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:全然当てはまらない

★特に1や2がついてしまったところは、解説ページで確認して下さい。

★第1部★		自己チェック
1	新学習指導要領により、どのような方向で授業改善を進めるべきか理解している。 →P4へGO!	
2	小学校の英語教育がどのように変わり、小学校の学びをどのように中学校につなげていくべきか理解している。 →P5・6へGO!	
3	教科書のページを追って進めるのではなく、単元計画に基づいて授業を進めている。 →P7へGO!	
4	1時間の授業を、知識の獲得のみをゴールにするのではなく、コミュニケーションを目的とした言語活動を手段として育成を目指す資質・能力をゴールにしている。 →P8へGO!	
5	文法の定着のみならず、それを活用した言語活動の充実を図っている。 →P9へGO!	
6	教科書の本文の解説や和訳ばかりを行うのではなく、様々なリーディングスキルを身に付けるように単元を構成している。 →P10へGO!	
7	生徒の英語の使用機会を保障するため、All Englishの授業を行うよう心がけている。 →P11へGO!	
8	ペーパーテストの他にパフォーマンス評価を実施している。 →P12へGO!	
★第2部★		
☆	平成30年度全国学力・学習状況調査予備調査問題「聞くこと」に示された付けたい力を理解して指導している。 →P14・15へGO!	
☆	平成30年度全国学力・学習状況調査予備調査問題「読むこと」で示された付けたい力を理解して指導している。 →P16・17へGO!	
☆	平成30年度全国学力・学習状況調査予備調査問題「話すこと」で示された付けたい力を理解して指導している。 →P18・19へGO!	
☆	平成30年度全国学力・学習状況調査予備調査問題「書くこと」で示された付けたい力を理解して指導している。 →P20・21へGO!	

# ★第1部★

## 新学習指導要領による 具体的な授業改善の視点

新学習指導要領で求められている  
指導の在り方について理解を深め、  
実践に生かしましょう。  
授業改善は今日から！



# 1 新学習指導要領で求められる授業改善の方向性

## (1) 新学習指導要領がめざす教育とは

中学校学習指導要領解説外国語編P10～16  
P82～P90

- ・外国語教育においては、小・中・高等学校が一貫して、**コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確にすることが重要**であり、中学校においても**生徒同士のインタラクションを大切に**した言語活動を**中心に授業を行う**ことが求められている。
  - ・**教員が説明したり、教え込んだりするのではなく、生徒がコミュニケーションのなかで英語を使って活動**をすることができるような、単元を見通し1時間のねらいに向けてしっかりと組み立てるなどのリピート中心の授業からの改善が望まれる。
  - ・生徒が**自分の考えや気持ちを、お互いに伝え合う**ことを基本に据えた言語活動にしていくことが必要である。
- ※英語を使えば活用ということではなく、**相手や目的・場面・状況に応じて使うことが求められている**。文法は4技能を修得するための手段であり、**文法学習が目的化しないように注意**。

## (2) 語彙の指導について

中学校学習指導要領解説外国語編P33～35

- ・現行の1,200語程度から、**1,600～1,800語程度**へ。小学校で指導すべき語数600～700語程度を加えると、**中学校卒業段階では、2,200～2,500語程度活用**。
  - ・小学校の語彙を中学校の言語活動においても**繰り返し活用しながら定着**させることが重要。
  - ・中学校の教科書などで扱う語の中には、話したり書いたりする際に使用させたい**発信語彙**と、聞いたり読んだりする際に理解できればよい**受容語彙**が混在している。すべての語を使いこなさなければならないということではなく、すべての語の綴りを正確に書けなければならないということでもない。
- ※**学習活動の多くを使って新出語句を一律にプリントで暗記させたり、小テストを繰り返したりするなど、生徒に過度な負担をかけることのないように注意**。

## (3) 文法事項の指導について

中学校学習指導要領解説外国語編P93～94

- 「**気付き**」を大切にした指導  
導入時、日本語で説明するのではなく、英語を使って導入することにより、何を意味しているのか、今まで習った文との違いは何かなどの「**気付き**」を大切にした指導を行う。
- 文法は、**使いながら習得**させる指導  
文法の知識を五領域の実際のコミュニケーションにおいて活用できるような授業の組み立てが重要。  
S.V.O.Cと基本形を教えて、その型に慣れさせる指導は、今ではエラー。

## (4) 障がいのある生徒への配慮

中学校学習指導要領解説外国語編P88～89

- 語を書いたり発音したりする際、明確な規則にこだわって強い不安や抵抗感を抱いてしまう生徒には、
    - ・その場で発音することを求めず、ねらいに沿って安心して取り組めるようにする。
    - ・似た規則の語を選んで扱う。
  - 音声を聞き取ることが難しい生徒には、
    - ・リズムやイントネーションを、教員が手拍子を打つ。
    - ・音の強弱を手を上下に動かして表す。
    - ・本時の流れが分かるように、本時の活動の流れを黒板に記載しておく。
  - 文字数が多い単語や文などの文字情報になると、読む手掛かりをつかんだり、細部に注意を向けたりすることが困難な生徒には、
    - ・線上に文字を書く。
    - ・字体をそろえる。
    - ・カードなどを黒板に貼る際に、位置や順番などに配慮する。
- 等の配慮をしましょう。

## 2 小学校からの学びをつなぐ

### 今後、学びの違う子どもたちが入学してきます

全面実施までの学習内容及び語彙数等

29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度
	小学校移行期間			小学校全面実施	中学校全面実施
小5(35)	小6(50) Hi, friends!2 We Can!2	中1	中2	中3 ★新教科書 (1,200→2,500)	高1
小4	小5(50) Hi, friends!1 We Can!1	小6(50) Hi, friends!2 We Can!2	中1	中2 ★新教科書 (1,200→2,500)	中3 ★新教科書 (1,200→2,500)
小3	小4(15) Let's Try!1	小5(50) Hi, friends!1 We Can!1	小6(70) ★新教科書 (600~700)	中1 ★新教科書	中2 ★新教科書
小2	小3(15) Let's try!1	小4(15) Let's Try!2	小5(70) ★新教科書	小6(70) ★新教科書	中1 ★新教科書
小1	小2	小3(15) Let's Try!1	小4(35) ★新しい教材	小5(70) ★新教科書	小6(70) ★新教科書
年長	小1	小2	小3(35)	小4(35)	小5(70)

中学入学時累計授業時数 (移行期間中15時間プラスで実施した場合)

中学入学年	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)	33年度 (2021)	34年度 (2022)	35年度 (2023)	36年度 (2024)
中学入学時 累計授業時数	70	85	100	135	170	190	210
6年	35	50	50	70	70	70	70
5年	35	35	50	50	70	70	70
4年	0	0	0	15	15	35	35
3年	0	0	0	0	15	15	35
2年	0	0	0	0	0	0	0
1年	0	0	0	0	0	0	0

### 小学校ではこのような指導をしています

- ※ 5年生では三人称を扱いますが、中学生にとっても理解し使えるようになるのが難しい**一般動詞の三人称単数現在の-sは扱わない**ようにしています。
- ※ 6年生では、**過去形肯定文**を扱いますが、非常に限られた語や表現で、例えば、I went to the beach. I saw a starfish. It was fun. などに出合います。これらは、**文法事項の解説を通してではなく、夏休みにしたことなどを題材に過去について聞いたり話したりする必然性のある活動を通して出合わせる**ようにしています。
- ※ 読み書きについては、**音声で十分慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を、**掲示やパンフレット、絵本の中から識別したり、必要な情報を得たり、それらを書き写す、例を参考に書く**など細かなステップで、学習していきます。



#### ★中学年では・・・

- **体験を通して理解を深めます。**
- 児童が**興味・関心をもつ題材**のもと、児童が**やってみたいと思う活動**を設定します。

#### ★高学年では・・・

- **「読むこと」「書くこと」については慣れ親しみ**であり、「聞くこと」「話すこと」に求める技能と同等ではありません。
- **音声から文字**への指導を行います。
- 文や文構造の解説を通してではなく、児童が聞いたり読んだり、話したり書いたりする**必然性のある活動**を設定します。
- **"Small Talk"**という、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりする活動が入っており、児童が**興味・関心のある身近な話題**について、自分自身の考えや気持ちを楽しみながら伝え合うことで、既習表現を繰り返し使用する機会を保障します。

小学生がどういった内容をどのように学習して中学校に入学してくるのかを、校区内の小学校との連携を通して的確に把握することが必要です。(新教材や「研修ガイドブック」の内容も理解しておく必要があります)

また生徒が、自分の考えを表現する必然性のある場の設定や、インタラクションの場の設定、そして間違いを恐れない雰囲気作り等は、小学校でも行っていることです。小学校で素地が培われているコミュニケーションへの意欲や関心を、中学校でも引き継いでいくような授業づくりを行っていきましょう。



# 2 小学校からの学びをつなぐ～新教材の単元一覧表～

## ★3年生

単元	単元名	表現例
1	Hello! あいさつをして友だちになろう	Hello. Hi. I'm (Hinata). Goodbye. See you.
2	How are you? ごきげんいかが?	How are you? I'm (happy).
3	How many? 数えてあそぼう	How many (apples)? (Ten)(apples). Yes. That's right. No. Sorry.
4	I like blue. すきなものをつたえよう	I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. I don't like (blue).
5	What do you like? 何が好き?	What do you like? I like (tennis). What (sport) do you like? I like (soccer).
6	ALPHABET アルファベットとなかよし	(The "A" card), please. Here you are. Thank you. You're welcome.
7	This is for you. カードをおくろう	What do you want? (A star), please. Here you are. This is for you. Thank you. You're welcome.
8	What's this? これなあに?	What's this? Hint, please. It's (a fruit). It's (green). It's (a melon). That's right.
9	Who are you? きみはだれ?	Are you (a dog)? Yes, I am. / No, I'm not. Who are you? I'm (a dog). Who am I? Hint, please.

## ★4年生

1	Hello, world! 世界のいろいろなことばであいさつをしよう	Hello. Good [morning / afternoon / night]. I like (strawberries). Goodbye. See you.
2	Let's play cards. すきな遊びをつたえよう	How's the weather? It's [sunny / rainy / cloudy / snowy]. Let's (play cards). Yes, let's. Sorry. Stand up. / Sit down. / Stop. / Walk. / Jump. / Run. / Turn around.
3	I like Mondays. すきな曜日は何かな?	What day is it? It's (Monday). Do you like (Mondays)? Yes, I do. / No, I don't. I like (Mondays).
4	What time is it? 今、何時?	What time is it? It's (8:30). It's ("Homework Time"). How about you?
5	Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう	Do you have (a pen)? Yes, I do. / No, I don't. I [have / don't have] (a pen). This is for you.
6	Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう	Look. What's this? Hint, please. How many letters? I have (six). Do you have (a 'b')? Yes, I do. / No, I don't. That's right. Sorry. Try again.
7	What do you want? ほしいものは何かな?	What do you want? I want (potatoes), please. How many? (Two), please. Here you are. Thank you.
8	This is my favorite place. お気に入りの場所をしようかいしよう	Go straight. Turn [right / left]. Stop. This is (the music room). This is my favorite place. Why? I like (music).
9	This is my day. ぼく・わたしの一日	I wake up (at 6:00). I have breakfast (at 7:00). I go to school. I go home.

## ★5年生

1	Hello, everyone. アルファベット・自己紹介	Hello, I'm (Saki). Nice to meet you. My name is (Kosei). How do you spell your name? K-o-s-e-i. I [like / don't like] (blue). What (sport) do you like? I like (soccer) very much. I want (a new ball).
2	When is your birthday? 行事・誕生日	When is your birthday? My birthday is (August 19 <sup>th</sup> ). What (sport) do you like? Do you like (soccer)? Yes, I do. / No, I don't. I [like / don't like] (soccer). Do you want (new soccer shoes)? What do you want for your birthday? I want (a dog). This is for you. Thank you. You're welcome. Happy birthday.
3	What do you have on Monday? 学校生活・教科・職業	Do you have (P.E.) on (Monday)? Yes, I do. / No, I don't. What do you have on (Monday)? I study (math). I want to be (a teacher). I want to study (math).
4	What time do you get up? 一日の生活	What time do you (get up)? I (usually) (get up) at (7:00).
5	She can run fast. He can jump high. できること	Can you (sing well)? Yes, I can. / No, I can't. [I / You / He / She] [can / can't] (sing well).
6	I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域	Where do you want to go? I want to go to (Italy). Why? I want to [see / go to / visit] (the Colosseum). I want to eat (pizza). I want to buy (olive oil). It's [exciting / delicious / beautiful / great / fun].
7	Where is the treasure? 位置と場所	Where is the treasure? Go straight (for three blocks). Turn [right / left] (at the third corner). You can see it on your [right / left]. It's [on / in / under / by] (the desk).
8	What would you like? 料理・値段	What would you like? I'd like (spaghetti). It's for (my brother). This is for (my brother). How much? It's (970 yen). Here you are. Thank you.
9	Who is your hero? あこがれの人	Who is your hero? This is my hero. [He / She] is good at (playing tennis). [He / She] is good (tennis player). [He / She] can (cook well). [He / She] is [kind / cool / great / strong / gentle / active / brave / funny].

## ★6年生

1	This is ME? 自己紹介	I'm from (Shizuoka). I like (soccer). I can (play soccer well). I am good at (running). My birthday is (August 19 <sup>th</sup> ). My nickname is (Ken). When is your birthday? What [colors / subjects / sports / animals] do you like? What is your favorite [color / subject / fruit / sport / animal]?
2	Welcome to Japan. 日本の文化	Welcome to Japan. In (summer), we have (fireworks festival). What [food / games] do you have in Japan? We have [soba / fukuwarai]. It's [delicious / fun]. You can enjoy [rakugo / hanami / tempra].
3	He is famous. She is great. 人物紹介	I am (Ken). I [like / play] [the violin / baseball]. I [have / want] a new [recorder / ball]. I eat (spaghetti). I study (math). I can [swim / cook / skate / ski / sing / dance]. I can (play baseball well). Who is this? [He / She] is [famous / great].
4	I like my town. 自分たちの町・地域	We have / don't have (a park). We can (see many flowers). We can enjoy [fishing / shopping / swimming]. I want a [library / park]. (Sakura) is nice.
5	My Summer Vacation 夏休みの思い出	I want to (my grandparents' house). I enjoyed (fishing). I saw (the blue sea). I ate (ice cream). It was [fun / exciting / beautiful / delicious].
6	What do you want to watch? オリンピック・パラリンピック	What do you want to watch? I want to watch (wheelchair basketball). I like (basketball). Are you good at (basketball)? Yes, I am. / No, I'm not.
7	My Best Memory 小学校生活・思い出	What's your best memory? My best memory is (sports day). We enjoyed (running). We [went to (Kyoto) / ate (Japanese food) / saw (old temples) / enjoyed (the trip)].
8	What do you want to be? 将来の夢・進路	What do you want to be? I like (animals). I want to be a (vet). I can (play the piano well). I am good at (playing the piano). That's (good). Good luck.
9	Junior High School Life 中学校生活・部活動	I like (basketball). I want to join the (basketball team). What club do you want to join? I want to enjoy (sports day). What event do you want to enjoy? I want to [study hard / read many books / make many friends].

# 3 単元を構成する



3 指導計画の作成と内容の取扱い (1) 指導計画の作成上の配慮事項 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語編P82~84

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、**コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い**、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。



- 単元の構成に当たっては、『**ゴールの明確化**』が大切です。単元で目指す生徒の具体的な姿や生徒に身に付けさせたい力を、CAN-DOリストに基づいて明確にしましょう。
- 単元のゴールから**Backward Design** (逆向き設計) して1時間ごとの目標を定め、各時間の活動を組み立てながら単元を構成しましょう。

## <逆向き設計による単元構想>

- ① CAN-DOリストに基づいた単元目標を設定します。
- ② 目標達成に適した課題と評価規準を設定します。
- ③ 単元終末で行うGoal activityを設定し、授業で行う最後の活動を単元に配置します。
- ④ 本時レベルで行う言語活動につながりをもたせます。(ゴールに向かうイメージ)
- ⑤ Small steps!

平木 裕 広島県立教育センター副所長 (第1回深い学びを実現する英語科協議会 資料より)

### 中学校英語科単元計画(例)【第3学年】

【単元のねらい】自分の行きたい場所について、その特徴や理由を関係代名詞を含む文を用いて、伝え合うことができるようにする。

【単元のめあて】ディズニーランドで行きたい場所やしたいことについて、グループで話し合い、行き先を決定することができる。(9時間扱い)

1次	【めあて】自分の行きたい場所について説明できるようになる。(単元の見直しをもつ) ○週末に行きたい場所やそこでのしたいことは? ○JTEとALTの話し合いを聞いて、単元終末のイメージを持つことができる。	振り返り
	【めあて】カードに描かれた絵について、関係代名詞を使って伝えることができる。○関係代名詞(主格that)の文の構造を知る。○教科書本文を通して、関係代名詞の使い方を理解する。	文法の整理 振り返り
2次	【めあて】カードに描かれた絵について、関係代名詞を使って伝えることができる。○関係代名詞(目的格who/which)の文の構造を知る。○教科書本文を通して、関係代名詞の使い方を理解する。	文法の整理 振り返り
	【めあて】カードに描かれた絵について、関係代名詞を使って伝えることができる。○関係代名詞(目的格who/which)の文の構造を知る。○教科書本文を通して、関係代名詞の使い方を理解する。	文法の整理 振り返り
3次	【めあて】健がブラジルでしたいことについて、必要な情報を理解することができる。○場面や状況を捉えて、文章を読み取ることができる。	振り返り
	【めあて】リオのカーニバルについて、日本と比較しながら説明することができる。○ブラジルの魅力について、自分の気持ちや考えを付け加えて説明することができる。	振り返り
	【めあて】ディズニーランドで行きたい3つの場所についてメモにまとめることができる。○情報や理由を整理して、関係代名詞を用いてメモを作ることができる。	振り返り
	【めあて】ディズニーランドで行きたい場所について、グループで話し合い、行き先を決定することができる。○伝え合う活動を通して、魅力や理由を説明できる。	振り返り
	【単元の振り返り】関係代名詞を用いて、行きたい県の魅力を説明できる。(パフォーマンステスト) ○教師に対して、県の魅力を説明するテスト ○カードに書かれた県の情報をもとに、その場で教師にPRさせる。	振り返り

### 「単元ゴール(付けたい力)は?」

単元計画を立てる際、次の3点に着目しましょう。

- ① CAN-DO (英語を用いて何ができるか)の面からゴールを設定しているか
- ② 語や文法事項等を覚えさせることが主たる目標になっていないか
- ③ 単元末までにできるようになっていることを意識しているか(生徒のどんな姿をイメージしているか)

## 4 1時間の授業をつくる

- 1コマ(50分)の基本的な流れは、(例) (挨拶→Warming-up・Review[復習]) → (導入[今日のめあての確認など]→練習等→中心となる活動→振り返り) → (挨拶)
- 設定した『単元のゴール』からBackward Design(逆向き設計)して定めた1時間ごとの目標を「めあて(今日のゴール)」とし、各時間の活動を組み立てる。

### Warming-up

#### 英語の授業の雰囲気作り

- 歌やチャンツ等 → 授業前に既習事項を含む歌やチャンツを流し、歌って復習し、英語の授業の雰囲気を作る。
- 授業の始まりの挨拶 → 教師と生徒の挨拶の後、生徒がペアの生徒や周りの生徒と互いに挨拶を行う。
- 日時等の確認 → 当番の生徒が教師役となって質問し他の生徒が答えたり、ペアで質問応答しあったりする。

### Review

#### 帯活動や既習事項を用いた復習

1つ1つの学習活動が、次の活動や後の活動につながっていき、

- 即興的なspeaking活動
  - 既習事項を用いて、与えられたトピックについて即興で会話したり、ピクチャーディスクリビングなどを行う。1回目の後に不明な点を確認したり辞書を引いたりし、ペアを替えて2回目を実施すると、自分の言いたいことを少しでも多く、またより上手に発話でき、意欲や理解の向上につながる。また、会話の内容を書く活動を取り入れると技能統合を意識した活動にもなる。
- 単語や基本文等の練習 → ペアで、学習する単語や基本文を発話し、確認する。書く活動などにも活用。
- めあての確認

### Activity

#### めあてを達成するための活動

目指すゴールに着実につながっていくように、

- 新しい言語材料と出会い、用法を理解する活動
  - Focus on formなどのように、習得したい文法事項や構文を用いて活動することで用法を理解する。
- 新出事項を習得する活動
  - 習得においては、ワークシートやICTなどを用いてパターンプラクティスを工夫。
- 単元のゴールで行う活動を達成するために必要な活動
  - 新出事項を用いた活動では、インタビュー活動やインフォメーションギャップなどを活用し、単元ゴールの表現活動を構成する内容を少しずつ行うことで生徒に新出事項に慣れさせるなど、scaffoldingを意識した活動を行う。
  - 教科書本文を扱う学習においては、習得の際は本文の続きのスク립トを作成したり、長文を扱う際はリテリングや英文から疑問文を考えたり、英文に直接書かれていない問いに答えたりするなど活動を通して内容理解を深められるようにする。
- 課題意識をもたせ、その解決に向かう活動
  - めあてを達成するために、どのような工夫をすればよいか等課題意識をもって活動に取り組めるようにする。

授業をデザインします。

### Reflection

#### 振り返りによるめあての達成や自分の学びの確認、次の授業への意欲喚起

- Sharing → 作成した英文等の交流を通して自分の英文をモニタリングしたり、友だちの英文からの気付きを促す。
- 確かめ問題 → 習得については、その日の学習内容を用いた問いに挑戦することを通して自分の学習を確かめる。
- 課題に対するまとめを行う。
- 振り返りシート等の活用による自己評価
  - 単元プランを生徒に配布している場合は、単元ゴールを意識して本時の達成や次の時間への目標を持つことができる。1時間ごとのシートでも、単元のゴールと本時のゴールを明記しておくと同じように意識できる。



## 5 言語活動の充実

- 2技能以上を関連付けてコミュニケーションを図ることが必然となる**技能統合型**の言語活動を設定すること。
- 情報を伝える / 受け取る**必然性**や**目的**を明確にし、伝え合う際の**相手意識**を持たせること。
- 生徒が**興味・関心**をもち、**付けたい力を付ける**【ねらいを達成する】活動にすること。

### <4技能を統合させた学習活動の例>

「読むこと」から「話すこと・書くこと」へ・・・

暗唱、ロールリーディング、リテリング、感想を書く、要約文を書く、など。

「聞くこと」から「話すこと・書くこと」へ・・・

レポーティング、感想を伝え合う、ディクテーション、ディクトグロス、ディクトコンポなど。

1年生の学習活動例	2年生の学習活動例	3年生の学習活動例
<ul style="list-style-type: none"> <li>●会話文の最後に1文を付け加えてペアでジェスチャーを付けながら暗唱しよう (NC1 Let's Talk1-9) (SS1 POWER-UP Speaking4,5,7,10)</li> <li>●先生達の自己紹介を聞き、新入生に校内の先生を紹介するためのカードを作ろう。 (NC1 Lesson6) (SS1 My project2)</li> <li>●友達が書いた学校生活についての記事を読み、よかったところや工夫してほしいところを伝えよう。 (NC1 Lesson9)</li> <li>●友達「空想日記」を読んで面白いところを見付けよう。 (SS1 POWER-UP Writing 11)</li> <li>●クラスの友達の自己紹介を聞いて、自分と違うところを発見しよう。 (NC1 Lesson3) (SS1 My Project1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●“The Ogasawara Islands”を読み、パンフレットの新しいタイトルを理由とともに発表しよう。 (NC2 Lesson3)</li> <li>●トラップ一家のお話を読み、写真を使ってあらすじを伝えよう。 (SS2 Extensive Reading)</li> <li>●友達が調べたオーストラリアについての紹介スピーチを聞き、メモを元にオーストラリアのエッセイを書こう。 (NC2 Lesson5 Use-Write)</li> <li>●友達が調べた日本における夏・冬それぞれの良さについてのスピーチを聞いて、自分の考えを意見文に書こう。 (SS2 Program10, POWER-UP8)</li> <li>●友達が書いた御礼の手紙を読み、職場体験で学んだことを整理しよう。 (NC2 Lesson6) (SS2 Program6)</li> <li>●ALTの出身地と自分達の出身地を比較したプレゼンテーションを聞き、お年寄りにとってどちらが住みやすいか投票しよう。 (NC2 Lesson7)</li> <li>●友達のコマーシャルを聞き、もっとも買いたいと思ったものに投票しよう。(SS2 My Project6)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●“The story of Sadako”を読み、さだこさんの周りの人たちの立場から物語を語ろう。 (NC3 Lesson4)</li> <li>●”Faithful Elephant”の要約文を元に一年生に紙芝居をしよう。 (SS3 Program4)</li> <li>●2人の会話を聞き、話している内容を3文で要約しよう。 (NC3 Lesson1-7 Get)</li> <li>●友達が選んで音読した有名人の名言を聞き、印象に残った言葉とその理由について紹介するカードを作ろう。 (SS3 POWER-UP7)</li> <li>●クラスの友達の自己紹介カードを読んで、自分との共通点を見つけよう。 (NC3 Lesson2 Use-Write)</li> <li>●卒業文集を読み、中学校への思いを分かち合おう。 (SS3 Special Project)</li> <li>●日本文化を紹介するスピーチを聞き、聞き取りメモを元に特長がわかるポスターを作ろう。 (NC3 Lesson4-6 Project2) (SS3 My Project8)</li> </ul>

## 6 教科書の「本文」の活用

- 本文の理解と活用にはさまざまな学習方法があり、授業者が生徒に付けたい力をはっきりともち、それに適した方法を用いることが大切。
- 新出単語の発音練習、音読練習は必須。スピーキングの基礎となるもの。
- 「訳すこと」は必ずしも必要ではない。[スキミング、スキミング←「読むこと」参照]

### 段階的に読みを深める！

Here is a story I want to tell you.

One day Rosa Parks, a black woman, was on a bus. She was sitting near the 'Whites Only' section. Soon that section filled up. The driver said, "Give up your seat, or I'll call the police." "No," she said.

The police came and arrested her.

(三省堂 New Crown English Series 3, p72)

[活用例①]

「やりとりの中で概要をつかむ。」

本文についてQ&AやT-F Questionを行う。教師の発問に生徒が答えます。口頭ではなくプリントを用意することも考えられます。生徒が質問を考え、ペアでたずねあうという方法もあります。この場合は、即興性、正確性のどちらに重点を置くこともできます。

[活用例②]

「行間を読み取る。」

Why did Rosa say "No." ?

本文には直接述べられていないことがらについて問います。ローザは「No.」のあとになんと言ったのでしょうか？などの質問にすることも考えられます。

[活用例③]

「行間を読み取り、自分の考えを表現する。」

"No," she said.とThe police came and arrested her.の間にあった登場人物の会話を考える。登場人物(Rosa、Driver、その他の乗客など)の心情を考えながら、ペアでその人物になりきって発表させる。正確性よりも即興性に重点を置き、発表のあとにその英文を書いて提出させます。

### 本文を読んで自己表現につなげる！

Raj: Who's that man? I don't know him.

Meiling: He's Mr Yoshida, our music teacher.

Raj: I see.

Meiling: Do you know the woman behind him?

Raj: I know her. She's Ms Brown.

Meiling: Right.

(三省堂 New Crown English Series 1, p62)

[活用例④]

「he/she, him/her, Mr/Ms, boy/girlを使い分けられるようにする。」

..の人物を友達におきかえ、会話の中で紹介する。

小学校入学式の集合写真を見ながら、ペアで前後に並んでいる友達について会話をする。発表のときは教科書を見ないで写真だけを見る。

#### [本文活用方法の例]

- ① 内容を絵で表現する。
- ② 英語で要点をまとめる。
- ③ 重要だと思う1文を抜き出す。
- ④ 文や段落ばらばらにして意味の通るように並べかえる。
- ⑤ 内容についての質問を考える。

☆表現活動につながるものとして…

- ① 行間に入る英文を考える。
- ② 自分の考えを付け足す。
- ③ 自分のことに置き換えて表現する。
- ④ その他

## 7 英語で行う英語の授業



Ⅰ 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。  
中学校学習指導要領解説外国語編P86～87

\*「授業は英語で行うことを基本とする」のポイント(中学校学習指導要領解説外国語編より)

### 生徒が授業の中で「英語に触れる機会」を最大限に確保する

→生徒が日常生活において英語に触れる機会が非常に限られていることを踏まえ、英語による言語活動を行うことを授業の中心に据えることを意味する。

### 授業全体を英語を使った「実際のコミュニケーションの場面」とする

→教師が授業中に積極的に英語を使用することで、生徒とのやりとりが豊富になる。  
→教師自身がコミュニケーションの手段として英語を使う姿勢と態度を行動で示していくことが肝心である。

### 生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにする

→説明や発問、課題の提示などを生徒の分かる英語で話し掛けることが必要である。  
→発話の速度や明瞭さを調整するとともに、使う語句や文などを平易なもので言い直したり、繰り返したり具体的な例を提示したりするなどの工夫をする必要がある。

### \*「英語で授業」のコツ（現場で使える教室英語より）

英語で授業をする際に大切なことは、生徒と一緒に少しずつ英語を使う時間を増やしていくことです。その際、次の4つの点に注意しましょう。

- ① これから行うことを“Let’s～”や“Let me～”という表現で示しながら、授業を進める。  
例) Let’s check the new words.
- ② 具体的な指示を分かりやすく、動詞で始まる文で示す。  
例) Make groups of four or five.
- ③ 生徒への質問は答えやすいものから始め、少しずつ生徒が思ったことや感じたことを聞く。  
例) What is the title of this lesson?  
Which sentence do you like the best?
- ④ ほめたり、励ましたり、確認や聞き返しをしながら授業を進めていく。  
例) Very close! Any questions? Do you understand?



## (1) パフォーマンス評価の例

### 【話すこと[やり取り]】

- ・インタビュー（質問に対して2文で応答する。相手に質問するなど）
- ・チャット（情報を相手に話したり質問して相手から得たりするなど）
- ・電話での交渉（誘う、決めるなど。）
- ・ロールプレイ（場面を設定し、カードに書かれている指示に従って話すなど）
- ・ディスカッション（テーマに沿って、どうすべきか話し合うなど）
- ・ディベート（論題を与え、賛成側と反対側で意見を述べ合うなど）

### 【話すこと[発表]】

- ・即興のスピーチ（「My favorite ○○（私の大好きな○○）」など話題の書いてあるカードを引き、それについて話すなど）
- ・即興の説明（単語の書いてあるカードを引き、それについて説明するなど）
- ・イラストの描写（イラストを見て、即興でその内容を説明するなど）
- ・スピーチ（「私の夢」などや教科書本文を読んだ感想を述べるなど）
- ・プレゼンテーション（ペアまたはグループで調べたことの結果の資料を見せながら説明を行うなど）

### 【領域複合型】

- ・聞いたことについて意見を述べる（相手の主張を聞き、それに対する自分の意見を述べるなど）

本多敏幸『中学校新学習指導要領 英語の授業づくり』(明治図書出版2018.7)を参考

## (2) ルーブリックによる評価基準

パフォーマンス評価を行う際には、ルーブリックを作成し、ルーブリックはテストを行う前に生徒に示しましょう。次のようなルーブリックも参考にできます。「評価規準」による評価と併用することで指導に生かしましょう。

### 【スピーキング採点基準 平成29年度「英語教育改善のための英語力調査」より】

	即興を前提とするやりとり		ある程度の準備をした上で話すこと	
	内容の評価	文法、表現の評価	内容、構成の評価	文法、表現の評価
3点	相手の発話に対応した適切な内容で、すべてに応答できている。	適切に応答できていて、適切な文法や表現を用いて話している。誤りがあったも理解には影響しない。	与えられた質問に対応した内容となっていて、論理展開がわかりやすい構成となっている。	自分の言葉で十数語以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあったも理解には影響しない。
2点	相手の発話に対応した適切な内容で、おおよそ応答できている。	ほぼ適切に応答できていて、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。	与えられた質問に対応した内容となっていて、単純な要素を関連付けて述べている。	自分の言葉で十数語以上は話して、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。
1点	相手の発話に対応した適切な内容で応答できているのは半分以下である。	時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はだいたいわかる。	与えられた質問に対応した内容となっているが、単純な要素を並べて述べている。	自分の言葉で十数語以上は話して、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はだいたいわかる。
0点	相手の発話に対応した適切な内容でほとんど応答できない。	使える文法や表現は限定的である、あるいは、適切な内容でほとんど応答することができない。	与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である。	使える文法や表現は限定的である。あるいは自分の言葉で話せた内容が十数語に満たない。

## (3) パフォーマンス評価の実施方法

### ○教室内で（主に[発表]）

- ・単元最後の自己表現活動で、生徒による相互評価とともに、教師による評価を行う。
- ・発表等をビデオに録画し、後に評価を行う。

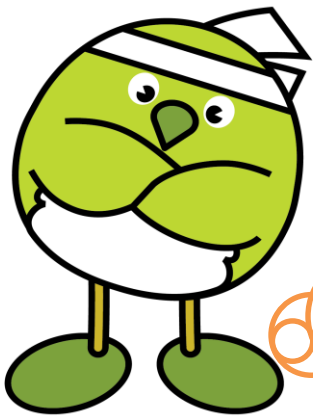
### ○他室で（主に[やり取り]）

- ・4人程度のグループごとに、テーマによるやり取りをさせて評価を行う。
- ・ALTとの1対1のやり取りを行い、ALTとともにJTEも客観的に評価を行う。
- ・英検3級の二次試験問題（過去問）を活用してテストと評価を行う。 等

※パソコン教室等で、画面を見ながら聞かれたことに対してそれぞれで答える練習をすることも大切です。

## ★第2部★

# 平成30年度全国学力・学習状況 調査英語予備調査問題から見る 技能別の具体的な取組



予備調査の問題から、今、どのような力が求められ、どのような授業改善が必要なのか、見てみましょう！

実践のヒントが詰まっています。評価問題から日常の授業の組立を見直す大切さはこれまでも同様です。

## 「問題形式」「放送原稿」から 求められる力を探る！

1

### 「内容に合う絵を選ぶ」問題（標準的）

- (1) Close your textbook and raise your hand.
- (2) There are a lot of books on my desk, so I can't study here.
- (3) A: How will the weather be today?  
B: It's rainy now, but it'll be sunny in the afternoon.
- (4) A: May I help you?  
B: Yes, I want that T-shirt over there.  
A: Which one?  
B: The one with three birds and some English words on it.

### 問題の特徴

■ 英文が流れる回数は、全て1回（要注意）

■ 3番、4番の問題は新傾向

■ 原稿の英語は、中3春では、やや難

授業改善  
のヒント



2

### 「スピーチ順に絵を並べる」問題（標準的）

Do you know this animal? Of course, it's a panda. It's very cute. When did pandas first come to Japan? They came to Japan from China in 1972. Taking care of them was very hard for the zookeepers because it was their first time to keep pandas. Now we can see pandas at some zoos in Japan. I hope we can see more pandas in Japan in the future.

### 毎時間の授業で

- 英語を聞く時間を十分に取る。（教師・ALTの英語、CDの英語）
- 教科書に関連した聞き取りテストをする。

3

### 「話者が一番伝えたいことを選ぶ」問題（★新傾向）

You are going to take Course A and start climbing at ten o'clock tomorrow, right? But you have to take Course B and start earlier. Course B takes more time, but it is easier than Course A. Course A is too difficult for junior high school students. The weather on the mountain changes quickly. I'm afraid it'll be rainy tomorrow afternoon. So you need to start before eight. Starting at ten is too late. That's my advice.

### 問題取組例

（こんな方法もおすすめ）

① 類似パターンの聞き取りテストを実施  
（英文は1回しか流さない）

② 放送原稿を読ませて、再度解かせる

③ 再度、聞き取りテストとして、解かせる

④ 答え合わせをする

鍵となった英語を太字下線で表しました

## 質問・提案など聞き取った内容に適切に反応する力

○全国学力・学習状況調査英語予備調査  
「聞くこと」問題から

4 (放送問題)

英語の授業中に、先生からある提案があり、用紙が配られました。先生の話聞いて、あなたの考えを1文以上の英語で簡潔に書きなさい。

(音声スクリプト) Our English teacher Mike is going back to his country this month. Let's do something with him at school. What do you want to do with him? Give me your answers after class.

授業改善の  
ヒント1

聞き取った内容に従って動く活動

### TPR

○ 小学校外国語活動でのクラスルームイングリッシュの指導や、中学校1年生の命令文の学習の際に、教師の指示に従って児童・生徒に実際に行動させる、TPRという指導法があります。活動中は一切日本語を介さず、うまく行動できたら「Good!」などと評価します。行動を通して意味を理解させること、学習者に「話すこと」を強制しないことなどから、ストレスなく学習に取り組めると言われています。

単に立ったり座ったりさせるだけではなく、カードやボールなどを準備しておき取りに行かせたり、「Simon Says」のようなゲームにしたりすることもできます。

### 英語でレシピ

○ まずJTEが、カレーライスや肉じゃがなどの日本の料理について、準備物や簡単なレシピを英語で伝え、生徒はメモやイラストで聞き取ったことを記録する練習に取り組みます。次にALTに母国の料理について同じように説明してもらい、班ごとにレシピを完成させます。可能なら実際にALTが調理している動画を見せて答え合わせをするとよいでしょう。

TPR: Total Physical Response (全身反応教授法)の略。1960年代にアメリカの心理学者James Asherが提唱した。長期記憶、短期記憶の両方に効果があると言われている。

「母国へ帰国するALTと一緒にしたいこと」について、英文で書いて答える問題。

- ①ALTとのお別れの記念に、
- ②ALTと一緒に、
- ③学校でできること、

の3点を踏まえて表現する力が問われています。

聞き取ったことをもとにして自分の考えを書く「技能統合型」の問題です。授業でも、話者の意図を汲み取り、適切に反応する言語活動を取り入れていく必要があります。

授業改善の  
ヒント2

聞き取った条件に従って書く・話す活動

○ 全国調査の問題場面と同じように、教師が場面や状況を話し、生徒は条件に合わせて英語で書いたり話したりします。この場合も、発話や作文の正確性を評価するのではなく、場面・状況にあったものであれば正解とします。

【場面・状況の例】

- ・ A student from Australia will come to our city in August. Please tell him what he can enjoy in Japan in August.
- ・ If you visit Australia in December, what do you want to do there, and why do you want to do it?
- ・ To make our school more wonderful place, what can we do?
- ・ An American student will come to your house and stay for 2 weeks. This is the first visit to Japan for him. Tell him what he can do or what he should not do in Japanese life.

単に「テスト対策」として行う活動ではなく、生徒の「聞く力」を高め、即興的に「書く力」や「話す力」を育てることを目的に行う活動です。授業は最初の10分間などに、計画的・定期的・継続的に取り入れることで、技能が統合的に発達し、コミュニケーション能力の育成にもつながります。

### パラグラフの要点や概要を把握する力

○全国学力・学習状況調査英語予備調査  
「読むこと」問題から

6 英語の授業で、身近なものを調べて発表することになりました。次の英文は、ある生徒が、チョコレート (chocolate) について調べた発表原稿です。これを読んで、発表の始めに話の流れを示すスライドとして最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

Hello, everyone. Do you like chocolate? I think many people do. Now, I'm going to tell you about its history.

People in ancient Mexico started to use cacao to make chocolate. It was different from chocolate today. People drank chocolate. They thought it was good for their health. It was a kind of medicine and very expensive.

How did chocolate first come to Japan? During the Edo period, people from Europe brought chocolate to Nagasaki. During the Meiji period, some people learned about making chocolate and wanted to make it in Japan. They tried very hard and finally they could. But it was still expensive.

Some confectionary companies began to make chocolate during the Taisho period. After World War II, chocolate became sweeter and cheaper, so it's popular now. Today you can see many kinds of chocolate in the supermarket. Which is your favorite?

#### 1 The Chocolate Story

- (1) Where did the history of chocolate begin?
- (2) How did Japanese people learn about chocolate?
- (3) Why is chocolate popular today?

#### 2 The Chocolate Story

- (1) Who was the first Japanese person to have chocolate?
- (2) Who made chocolate first in Japan?
- (3) Why is chocolate popular today?

#### 3 The Chocolate Story

- (1) Where did the history of chocolate begin?
- (2) Why do many people like chocolate?
- (3) Who was the first Japanese person to have chocolate?

#### 4 The Chocolate Story

- (1) Who made chocolate first in Japan?
- (2) How did Japanese people learn about chocolate?
- (3) Why do many people like chocolate?

チョコレートについて調べた発表原稿を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選ぶ問題。

各段落の要点や概要を読み取り、話の流れを大まかに把握する力が求められています。



授業改善  
のヒント

○ 話の流れを大まかに把握するためには、各段落のトピック・センテンスを探すことが大事です。パラグラフの中で核となる1文を選ばせることで、それ以外のサポーター・センテンス (トピックについて詳しく説明する文章) と区別をして、パラグラフに対する認識を高める必要があります。

☞ パラグラフの要点に気づき、英語で相手に伝える活動

1. トピック・センテンスに下線を引く。

People in ancient Mexico started to use cacao to make chocolate. It was different from chocolate today. People drank chocolate. They thought it was good for their health. It was a kind of medicine and very expensive.

2. キーワードを抜き出す。

people Mexico use cacao make chocolate

3. 生徒は、抜き出したキーワードを見て、英語で話す。

※「話す」活動以外にも、キーワードを「書く」活動に利用するなど、授業に応じて応用が可能。



## 必要な情報を文章の中から読み取る「スキミング」の力

○全国学力・学習状況調査英語予備調査「読むこと」問題から

- 7 次の英語は、あなたが見つけたイングリッシュ・カフェ (English Café) という催しのホームページの一部です。参加者が事前に準備すべきことを知るためには、この中の1から4のどの部分を読めばよいですか。最も適切なものを1つ選びなさい。

# English Café

Free English Program

**Date** : Sunday, June 3rd  
**Time** : 3:00 p.m. - 5:00 p.m.  
**Place** : City Hall Restaurant

### Come to English Café and ...

- 1 -You can enjoy speaking English with people from many countries.  
 -You can learn about their countries: the U.S., Australia, Canada, China, India ...
- 2 -You will have a chance to tell them about Japanese traditional things in English. Please think of something to talk about.
- 3 -We are going to have some food from other countries.  
 Of course, there will be Japanese food, too.
- 4 If you have any questions about the program:  
 You can send an email to midori@XXXX.XX,  
 call 0120-□□□-□□□, or visit our office at City Hall.

「English Café」という催しのポスターを見ながら、参加者が事前に準備しなければならない内容を読み取る問題。

全ての英文を精読する必要はなく、必要な情報のみを読み取ろうとする「スキミング」の力が求められています。

このような力を身に付けるためには、授業でも、英語で書かれた新聞記事や広告、パンフレットなどから必要な情報を読み取る活動など、communicativeな読解活動が必要です。

※スキミング (scanning): 必要な情報を文章から読み取る技術。一般に、新聞やパンフレットなどを読むときに私たちが自然に用いている読み方。



### 授業改善のヒント

- 英語で書かれた海外旅行のパンフレット、外国の新聞の広告、外国のレストランのメニュー、アメリカの遊園地のアトラクション情報、英字新聞の記事等、現実的で最新の情報は、現在ではインターネット等を通じて容易に入手することができます。
- これらのauthenticな情報を教室に持ち込み、実際に海外旅行に行く場面や、外国のレストランで食事をする場面などを想定して必要な情報を読み取らせることで、逐語訳ではない、authenticな読み方を体験させることができます。

FEEDING TIMES!

**Lions:** Daily at 2.15 p.m. except Friday.  
**Sea Lions:** Daily at 10.30 a.m., 2.30 p.m. and 3.40 p.m.  
**Chimpanzees:** Every day at 2.15 p.m.  
**Penguins:** Every afternoon at 4.00 p.m.  
**Ring-tailed Lemurs:** High season only, around 3 p.m. See notice.  
**Elephants:** Inside their quarters 3.30 - 4 p.m. each day.

\*We try to keep to these times but they may be changed according to the animals' needs and the weather.

外国の動物園のパンフレットより、動物へ餌を与える時間から見学コースを考えさせる例。

## 場面や状況を判断して応答し 会話をつなげる

### ○全国学力・学習状況調査英語予備調査 「話すこと」問題から

大問1 問題は、①から③まであります。解答時間は、それぞれ10秒です。それでは、始めます。



①What time is it?



②How many children are there?



③What is this woman doing?

大問1 簡単な質問に対して、一問一答式で解答するという課題です。解答は「知識・理解」の比重が大きく、きわめて限定的になります。

大問2 あなたは、ナオミと、イギリスから来たリチャード先生の3人で話をしています。まず、ナオミとリチャード先生が、2人で話している場面から始まります。その後、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは、始めます。



R: I want to visit three countries: the U.S., Australia, and China.

N: Why do you want to go to the U.S.?

R: Because I want to see a baseball game there. I'm interested in baseball.

N: I see.

R: And I want to go to Australia again.

N: When did you go?

R: Two years ago. It was a lot of fun.

N: Oh, I want to visit Australia.

R: Great!

(2人が画面の先の生徒の方を見る)

N: Well, do you have any other questions for him?

大問2 会話文を聞いて内容把握、状況判断し会話をつなげる課題です。文脈(この場合は会話の内容)に沿って話すことが求められます。「知識・理解」を基にした活用力が求められます。

#### 【付けたい力】

- 生徒に英語で即答を促す場合、的確な状況判断力が必要になります。そのため基礎的な語彙力や聞く力が大きく関係します。
- 次に自分なりに状況判断ができれば、その答えのキーワードを想起することになります。小学校の外国語活動、外国語で身に付いたスキルが発揮されることも期待されます。
- そして、即興的に応答するためには、慣れ親しんだ英語をベースにして正しく答えるスキル=正確な英語の文を構成するための「生きて働く」文法の定着と活用が必要です。



#### 授業改善の ヒント

例えば、授業でのペアワークや、グループワークで教科書の内容(会話文、説明文等)を他の生徒に即興で(または概要のメモ等を利用して)口頭で伝える練習などが有効です。この場合、正確さよりも「伝える」ことを意識させることが大切です。

次に、その内容に対してペアやグループのメンバーが、口頭でプラスワンのコメントを付け加えたり、質問をしたりする練習が有効であると考えられます。発達の段階に応じて文章量の増減や、メモの使用頻度等を調整し、即興的なやり取りに近付けていくことが大切です。また、伝えられたことや伝えようとしてうまく伝わらなかったこと(概要の把握が不十分、基本的な文構造の理解が不十分、語彙不足など)を書き出すことで振り返り、生徒のモチベーションを維持しながら成果と課題を意識させ、次時につなげることも有効です。

## 与えられたテーマに即して、 即興的に話す力

### ○全国学力・学習状況調査英語予備調査 「話すこと」問題から

大問3



#### 紹介する内容の例

- 学校のある場所や地域
  - 部活動
  - 学校行事
  - 先生や生徒 など
- ◎ これら以外のことや、一部だけを紹介してもよい

あなたは英語の授業で、シンガポールの姉妹校の生徒と、テレビ電話でお互いの学校を英語で紹介することになりました。1分間、自分の学校について紹介する内容を考えた後、30秒で紹介します。画面にある例を参考にしてください。これらの内容以外のことや、一部だけについて紹介しても構いません。

それでは、1分間、内容を考えましょう。

それでは、30秒で紹介してください。

「自分の学校について30秒で紹介する」というテーマが与えられ、1分間で話す内容を準備し、30秒以内で話すという課題です。紹介する内容の例はいくつか挙げられていますが、それ以外のことについて話してもかまいません。

1分間で何をどの順番で話すかを大まかに決めて、ほぼ即興で自己表現する力が求められます。

十分に準備をして暗記してから話す「スピーチ活動」ではなく、即興的に英語でやりとりをする活動が授業で求められます。

- 生徒に「話すこと」「書くこと」の自己表現活動に取り組みさせる場合、何についてどう話す／書くのかを考える「プランニング」の時間は欠かせません。また、プランニングの際に、何をどう準備しておけばよいのか、効果的な準備の仕方を身に付けさせることも重要です。
- 自分なりのプランニングのストラテジーをもたせ、それに慣れさせることで、準備の時間をだんだん短く効果的にすることができ、ひいては、即興的に書いたり話したりする力へとつなげていくことができます。
- ここではマインド・マップを用いたプランニングの例を紹介します。マインド・マップには様々な種類があり、特に決まった形があるわけではありません。右の例は、初心者向けに、あらかじめマップの中に書き込む数を制限したものです。
- 慣れてくれば、書き込む語の数を増やしたり、はじめから英単語で書かせたりするのもよいでしょう。また、マインドマップには短い言葉で書き込ませておき、英文にする際に「何を主語にするか」を考えさせるようにすると、英文にしやすくなります。

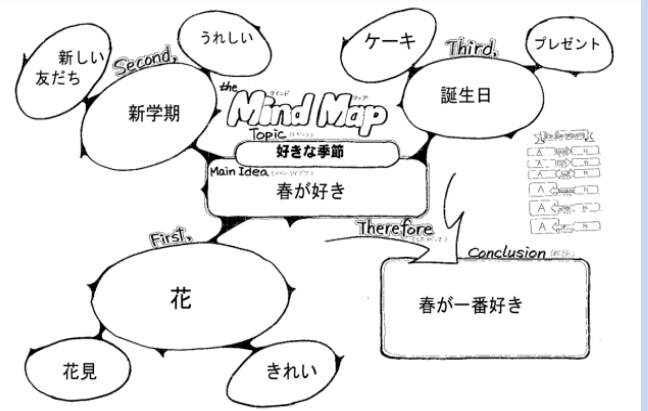


参考文献「中学生のパラグラフ・ライティングにおける事前プランニングとしてのマインドマップの有効性」  
(立川研一, STEP Bulletin Vol.23, 2011, 旺文社)

### 授業改善 のヒント



#### マインドマップを用いた作文指導の例



【スピーチ例】I like spring. I have two reasons. First, we can enjoy seeing beautiful flowers. Second, our school begins in April, so I can meet many new friends. Therefore I like spring the best of all seasons.

- 必ずしもマップに書き込んだ全ての語を使わなくてよい。
- スピーキング活動では、テーマに即した内容になっており、意図した内容が伝わるようになっていれば、正確性は重要視しない。
- 評価のポイントは、①テーマに即した意見や考えを表す文 (topic sentence) があるか、②理由や根拠などを表す文 (supportive sentences) があるか、③結論まで論旨が一貫しているか、等。

## 2つの文を関連付け、 論理的につなぐりのある文を書く力

○全国学力・学習状況調査英語予備調査  
「書くこと」問題から

9 (1) 次の①, ②について, ( ) 内に入れるのに最も適切な語を, それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

① My brother was watching TV ( ) I came home.

1 if      2 when      3 that      4 or

② I can't drink this tea ( ) it's too hot.

1 so      2 whether      3 because      4 before

「順接」「逆説」「理由」「仮定」など2つの文の論理的な関係性を理解し、適切な接続詞を用いてつなげることができる力が問われています。このような問題は、「when=～のとき」「or=それとも」「so=だから」「because=(なぜなら)～なので」など、個々の単語の意味を1対1対応で暗記するだけでは解くことができません。

日頃の授業の中で、英語の文同士の論理的なつながりを意識させる学習活動を行う必要があります。

### 授業改善の ヒント1



I practice baseball.

I like baseball.

It is interesting.

I like Ichiro.

I don't play it.

It is exciting.

I watch baseball game on TV.

My father likes baseball, too.

My brother is a good baseball player.

I'm not good at it.

**and**

**but**

**because**

○教師がテーマに沿ったいくつかの文を準備しておく。生徒はそこから自由に2つの文を選び、接続詞を使って1文にする。個人で取り組みいくつかの文ができるか競争したり、班対抗にして協力して文を作ったりする。

○1年生のときにand, butから始め、because, if, when, soなど、少しずつ接続詞の種類を増やしていくとよい。

○慣れてきたら、テーマを与えて班ごとに短文を作るところから始めてもよい。



参考文献：「中学校外国語（英語）『書くこと』実践事例集」（大分県教育委員会平成27年3月）より「1語から始まる英作文」

### 授業改善の ヒント2



## たれば連想ゲーム

お題： If I go to America, ...

Student A: If I go to America, I will go to New York.

Student B: If I go to New York, I will eat an American size hamburger.

Student C: If I eat an American size hamburger, I will be full.

Student D: If I am full, I will be happy.

Student A: If I am happy, I will sing a song.

Student B: If I sing a song, people will ....

○生徒は4人班を作り、じゃんけんで順番を決めておく。

○1人目の生徒がお題のテーマから始めて文を作る。（口頭）

○2人目の生徒は、1人目の生徒が作った主節をIf節として次の文を作る。

○3人目の生徒以降も、しりとり要領で、前の生徒が作った文の主節をIf節として文を作っていく。

○一定時間内に班で何文つなげることができるか競ったり、班で協力して4人目で「オチ」をつけさせたりすると盛り上がる。

※Ifの用法に慣れさせることが目的であり、文の正確さにはこだわらないようにする。



参考文献：「TALK & TALK」（田尻悟郎、正進社）

## 文と文とのつながりに注意し、 まとまりのある文章を書く力

### ○全国学力・学習状況調査英語予備調査「書くこと」問題から

10 初めて日本を訪れる外国人観光客向けに、パンフレットを作ることになりました。あなたは、A Gift from Japan! (日本らしいお土産)の記事を担当します。そこで、あなたがすすめたいものを1つ決めて、理由とともに30語以上の英数で記事を書きなさい。

※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 ( , や ? ) は語数に含めません。

(例) No. I'm not. 【3語】

※ 下の枠は、ド書きに使っても構いません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。



「部分点はなく、ケアレスミスがあっても言いたいことが伝われば正答と見なす。自分の考えを伝えるために『単語や短い文を羅列するだけでなく、文章構成や流れを意識することが問われる。』

(国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 清水正樹副部長)』

2018年6月19日内外教育より

### 授業改善のヒント1

## 教科書本文を使って

【ダイアログ→モノログ書き換え】  
必要な情報が含まれた文を書き出ししていく。その際、接続詞を用いて文と文をつなげる。

(例) A: What will you do tomorrow, Tom?  
B: I will go to the library.  
A: Do you like reading?  
B: Yes, I do. I go to the library every Sundays.

(トムの場合で)  
I will go to the library tomorrow.  
I like reading. So I go there every Sunday.

(トムについて)  
Tom will go to the library tomorrow. He likes reading. So he goes there every Sundays. (I like reading too. I often read history books. Reading is very interesting.)

【モノログ人称書き換え】  
スピーチなど一人称の文章を三人称に、または、三人称の文章を一人称に置き換えて書く。

### 【英借文】

部分的に単語を入れかえて、オリジナルの作文に書き換える。

※活動後に自分のことを含めた文を足したり、ペアやグループで伝えるなどの活動につなげることもできる。



### 授業改善のヒント2

## 帯活動で

### 【1分間チャット】

- 与えられたトピック(質問)について、じゃんけんて勝った方から話す。相手はあいづちを打ちながら、質問しペアで会話をつなげていく。もしくは、Why? And? Then?などと返し、相手の発話をうながす。
- 慣れてきたら、最初から理由もつけてスタートする。BecauseやFirst, Secondなどを段階的に条件に追加していく。
- 話した内容を、書く。



参考文献:「中学校外国語(英語)『書くこと』実践事例集」  
(大分県教育委員会平成27年3月)

	こんな授業から脱しましょう	当然 はまら ない	あま り はまら ない	ま あ ま あ る	よ く は ま る	こんな授業を目指しましょう
		1	2	3	4	
1	新中学校学習指導要領解説外国語編を読んでいない。					新中学校学習指導要領解説外国語編を読んで理解している。
2	授業は文法を説明して練習することが中心になっている。					文法はコミュニケーションを支えるものとして指導している。
3	単語はプリントや小テストを繰り返して、生徒に暗記させている。					受容語彙と発信語彙を区別し、教科書やコミュニケーション活動の文脈の中で適切に指導している。
4	小学校の授業を見たことがない。					小学校の英語の授業を見たことがある。
5	小学校の学習内容をよく把握できていない。					小学校の学習内容をよく理解している、
6	生徒に身に付けさせたい力(単元のゴール)を意識することなく、教科書のページをおって授業を進めている。					生徒に身に付けさせたい力を意識して、単元のゴールにコミュニケーション活動を位置付けて授業を行っている。
7	1時間の授業のゴールが、語や文法事項を覚えさせる習得になっていて、活用までできていない。					1時間の授業の終わりに、知識の習得だけではなく、活用力を身につけさせるよう、生徒に身に付けさせたい力をCan-doの形で意識して指導している。
8	文法を十分に説明し練習してからでないと、コミュニケーション活動に取り組みさせていない。					新出項目は、十分に活動の中で慣れさせてからその用法等を説明し納得させている。
9	めあて、課題、まとめ、振り返りがよく理解できていない。					めあて、課題、まとめ、振り返りを適切に授業に位置付けている。
10	言語活動が、生徒にとって自分の考えや経験、思い等を表現するものになっていない。(言葉の入れ替えや、教師が与えたものから選ぶ等の練習にとどまっている)					言語活動は、生徒にとって自分の考えや経験、思い等を表現するものになっている。
11	教科書の扱いが和訳や解説で終わったり、ワンパターンになってしまったりしている。					教科書本文の指導に当たっては、和訳や解説で終わることなく、様々な学習活動を行うなど、付けたい力に応じて様々な指導に役立てている。
12	英語の使用頻度が生徒より自分の方が多い。					授業において、生徒の英語使用の場を保障している。
13	自分の発話は英語よりも日本語が多い。					自分の発話は日本語よりも英語が多い。
14	パフォーマンス評価がほとんど実施できておらず、ペーパーテストが評価の中心になっている。					定期的パフォーマンス評価を行い、4技能をバランスよく評価している。
15	全国学力・学習状況調査(予備調査)に示された付けたい力を理解した指導ができていない。					全国学力・学習状況調査(予備調査)に示された付けたい力を理解して指導を行っている。

**こちらにもっていくために、  
授業改善に積極的に取り組みましょう!**

# 英語科の授業改善のめやす

<2019, 2020年度にもチェックしてみましょう>

	こんな授業から脱しましょう	当全	当あ	当ま	当よ	こんな授業を目指しましょう
		て然 はま らな い	てあ はま らな い	てあ はま あ る	てよ はま る	
		←			→	
		1	2	3	4	
1	新中学校学習指導要領解説外国語編を読んでいない。					新中学校学習指導要領解説外国語編を読んで理解している。
2	授業は文法を説明して練習することが中心になっている。					文法はコミュニケーションを支えるものとして指導している。
3	単語はプリントや小テストを繰り返して、生徒に暗記させている。					受容語彙と発信語彙を区別し、教科書やコミュニケーション活動の文脈の中で適切に指導している。
4	小学校の授業を見たことがない。					小学校の英語の授業を見たことがある。
5	小学校の学習内容をよく把握できていない。					小学校の学習内容をよく理解している、
6	生徒に身に付けさせたい力(単元のゴール)を意識することなく、教科書のページをおって授業を進めている。					生徒に身に付けさせたい力を意識して、単元のゴールにコミュニケーション活動を位置付けて授業を行っている。
7	1時間の授業のゴールが、語や文法事項を覚えさせる習得になっていて、活用までできていない。					1時間の授業の終わりに、知識の習得だけでなく、活用力を身につけさせるよう、生徒に身に付けさせたい力をCan-doの形で意識して指導している。
8	文法を十分に説明し練習してからでないと、コミュニケーション活動に取り組ませている。					新出項目は、十分に活動の中で慣れさせてからその用法等を説明し納得させている。
9	めあて、課題、まとめ、振り返りがよく理解できていない。					めあて、課題、まとめ、振り返りを適切に授業に位置付けている。
10	言語活動が、生徒にとって自分の考えや経験、思い等を表現するものになっていない。(言葉の入れ替えや、教師が与えたものから選ぶ等の練習にとどまっている)					言語活動は、生徒にとって自分の考えや経験、思い等を表現するものになっている。
11	教科書の扱いが和訳や解説で終わったり、ワンパターンになってしまったりしている。					教科書本文の指導に当たっては、和訳や解説で終わることなく、様々な学習活動を行うなど、付けたい力に応じて様々な指導に役立っている。
12	英語の使用頻度が生徒より自分の方が多い。					授業において、生徒の英語使用の場を保障している。
13	自分の発話は英語よりも日本語が多い。					自分の発話は日本語よりも英語が多い。
14	パフォーマンス評価がほとんど実施できておらず、ペーパーテストが評価の中心になっている。					定期的にパフォーマンス評価を行い、4技能をバランスよく評価している。
15	全国学力・学習状況調査(予備調査)に示された付けたい力を理解した指導ができていない。					全国学力・学習状況調査(予備調査)に示された付けたい力を理解して指導を行っている。

**学習指導要領の全面実施は目前です。  
こちらに近づいてきましたか？**

本パンフレットは、次の者が編集に当たりました。

平成30年度小中の学びをつなぐ英語科指導力強化戦略会議メンバー

委員長	米持 武彦	大分県教育庁義務教育課課長
副委員長	武野 太	大分県教育庁義務教育課参事
委員	工藤 克文	大分県教育庁中津教育事務所次長兼指導課長
	佐脇 武志	大分県教育庁佐伯教育事務所次長兼指導課長
	立川 研一	大分県教育庁竹田教育事務所次長兼指導課長
	三村 洋平	大分県教育庁別府教育事務所指導主事
	日高 みつほ	大分県教育庁 大分教育事務所指導主事
	堀 剛士	大分県教育庁竹田教育事務所指導主事
	黒木 真紀子	大分県教育庁日田教育事務所指導主事
	福田 美和	大分県教育センター指導主事
	中津熊 勝典	大分県教育センター指導主事
	舟越 宣之	大分県教育庁義務教育課指導主事兼主幹
	佐田 香織	大分県教育庁義務教育課指導主事



……このパンフレットについてのお問い合わせ先……

## 大分県教育庁義務教育課

〒870-8503 大分市府内町3丁目10番1号 TEL:097-506-5534 FAX:097-506-1795

HPアドレス <http://www.pref.oita.jp/soshiki/31810/>